

松前町誌編さん審議会 会議録

1 開催日時	令和4年7月15日(金) 16時～16時35分
2 開催場所	松前町役場 3階 大会議室
3 出席者 (敬称略)	<p>【会長】 升田年紀 【副会長】 麻生英毅</p> <p>【委員】 岡田敏彦、伊賀上恒英、菅啓三、辻正道、郷田和美、 村上一郎、大西多美子</p> <p>【事務局】 総務課長：友田秀樹 町誌編さん室 室長：和田欣也、同 主任：久保美文</p> <p>【委託業者】 セキ株式会社</p>
4 議題	<p>(1) 第2回審議会以後の町誌編さん状況と今年度の予定について (報告)</p> <p>(2) 昭和50年以降の松前町を語る会の開催について (報告)</p>
5 会議の公開	公開
6 傍聴人数	0名
7 議事内容	
(発言者) 事務局 会長	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 審議会の公開、会議録の作成について</p> <p>会議は原則公開とし、公にすることで事業の適正な遂行に支障を及ぼす場合がある事項は非公開とすること、会議録はホームページ等で公開することを報告。</p>
会長 (議長)	<p>事務局へ報告依頼</p> <p>「第2回審議会以後の町誌編さん状況と今年度の予定について」</p>

事務局	<p>4 議題</p> <p>(1) 第2回審議会以後の町誌編さん状況と今年度の予定について</p> <p>【説明の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の町誌編さん状況 町誌編さん基本方針を策定するとともに、町誌編さん業務の委託業者を選定した。 ・令和3年度の町誌編さん審議会の状況 7月と1月、計2回開催。 基本方針、業者選定や編に関し審議報告を行った。
委託業者	<p>(上記に続いて)</p> <p>【説明の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度町誌編さん業務実施スケジュール 執筆者選定、原稿作成、資料収集、ワークショップ（昭和50年以降の松前町を語る会）の開催、資料編の制作と校正を進めていく。 ・各編の執筆担当者 プロのコピーライター（3名）を中心に執筆を進めていく。自然環境、歴史、民俗編の執筆者は検討中。 ・松前町誌執筆要領 要領案を提示。この要領で用字用語などのルールを決め、執筆に取り掛かるとともに、校正もこのルールを遵守する。
会長 (議長)	<p>質問・意見なし</p> <p>「第2回審議会以後の町誌編さん状況と今年度の予定について」終了。</p>
会長 (議長)	<p>事務局へ報告依頼</p> <p>「昭和50年以降の松前町を語る会の開催について」</p>

<p>委託業者</p>	<p>4 議題</p> <p>(2) 昭和50年以降の松前町を語る会の開催について</p> <p>【説明の概要】</p> <p>情報収集を目的に、5編の産業経済（農業）、6編教育（学校教育）、7編民俗・8編文化について、ワークショップ形式で各分野に関する思い出などを話し合う、昭和50年以降の松前町を語る会を今年中に開催する。</p>
<p>会長（議長）</p>	<p>質問・意見のある方に挙手を求める。</p>
<p>委員</p>	<p>歴史分野、原始関係のワークショップは考えているか。</p> <p>第2回の審議会するとき、協力者に3人の名前が挙がっていたので、(後日)「執筆などをされるのか」と聞いたが、「やらない」と言われた。相談があればのってもいいと言う方はいた。</p> <p>この分野（歴史分野）も、ライターの方が執筆されるのか。できないのであれば、この方々（協力者に挙がっていた3人）や、原始分野に関しては、県埋蔵文化財センターの一番新しい報告書である「JR貨物基地」関係の報告書を書いたメンバーが、最新の情報を持っているのでよいのではないか。</p> <p>ワークショップを開き、この項目は書くべきだとかこれは問題だとか、話し合う機会をもたないと、ライターさんをお願いしたとき、かなり悩まれると思う。</p> <p>予定には入っていないが、原始分野はワークショップを開催し、メンバーを選び協力いただくことを考えていただきたい。</p>
<p>委託業者</p>	<p>当初は、執筆を大学の先生に依頼する予定になっていたのですが、私から（協力者の1人に）相談し、(その他の) 協力者を御紹介いただいた。(執筆するかどうかは) 曖昧だったが、(協力者として) 名前の掲載は了解いただいていた。</p> <p>先ほど、(執筆者選定は) 紆余曲折してきた話もしたが、町と協議しながら今の考え（主にプロのライターが執筆）に至った。</p> <p>歴史は執筆者未定であるが、ワークショップで情報収集する、埋蔵文化財センターのメンバーから情報収集するなど、是非ともそれらを取り入れて、執筆、原稿作成に当たっていきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>受動的に参加するセミナーと違い、ワークショップは能動的に、自分から積極的に発言していく手法となり、(両者は)明らかに違うと思う。多く集めると、かえって難しくなると思うが、ワークショップはどの程度を想定し、メンバーはどういった人たちを考えているのか。また、町誌は、これからの町の在り方を論じる訳ではなく、過去を整理していこうから、そういった中で上手くその時代を反映したまとめができる形にしてほしい。</p> <p>次に、農業は、今はどちらかというと産業政策的な視点から論じられている。それも大事だが、最近、国でも地域政策の視点から農業を捉えることも出てきているので、今回のワークショップでも(その視点を取り入れ)展開していただきたい。例を挙げると、産業政策的には、農家数が減った、一形態の平均年齢が70歳を超えた(といえる)。しかし、農家数が減るといことは、捉え方によっては規模が拡大できている場合もある。平均年齢で見ても、農業は定年がなく近所の80歳、90歳の方も農業をしている。その方々を含んだ平均年齢であるので、捉え方も変わってくる。そういった観点や(農業の)変遷を踏まえ、将来の兆しが見えてくるようワークショップを運営していただけるとありがたい。</p> <p>それと、「減反政策」をテーマにしている。減反政策は、私の記憶では昭和45年頃から平成30年まで実施し、今は目安として各農家の判断でいろいろやっている。この厳しさをいうだけではなく、現実問題として、一人当たりの米の年間消費量が118kgからほぼ50kgという時代にきている。減反政策の必要性から、どういった政策が実施され、どういった転換をする機会があったのかという視点も捉えてほしいし、公平な立場からそういった議論をしていただけるとありがたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>農業分野のワークショップは、農協の資料や町の広報、写真などを資料として開催したい。メンバーは、農業従事者、審議会委員の皆さんをはじめ、消費者の方なども参加していただけたら面白いものになると思う。15人くらいのグループ単位を考えている。</p> <p>将来を見据えるワークショップになると思うが、(現在までのことを記す)町誌に反映するのは少し難しいかもしれない。しかし、委員がおっしゃったようなワークショップにしたいと思う。</p>

委員	地域の暮らしや学校生活の思い出、子どもの頃の暮らし方などを北伊予校区では13年ほど話し合い、「北伊予の伝承」という本の記録になっており、図書室にある。この進め方が、非常にワークショップの参考になると思うので、参考にさせていただきたい。
会長 (議長)	質問・意見なし 「昭和50年以降の松前町を語る会の開催について」終了。
会長 (議長)	事務局へ報告依頼「その他」
事務局	<p>5 その他 町誌「人物編」に掲載する人物候補について</p> <p>【説明の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物編の編さん 概ね昭和50年以降について、町の発展に大きく貢献した方や全国的に活躍された方など（故人）を掲載予定。 ・掲載する人物候補の把握 審議会委員をはじめ、幅広い分野から人物把握に努める。候補がいる場合は、町誌編さん室に情報提供してもらう。
委員	「その他」に関し、意見なし
審議会終了	